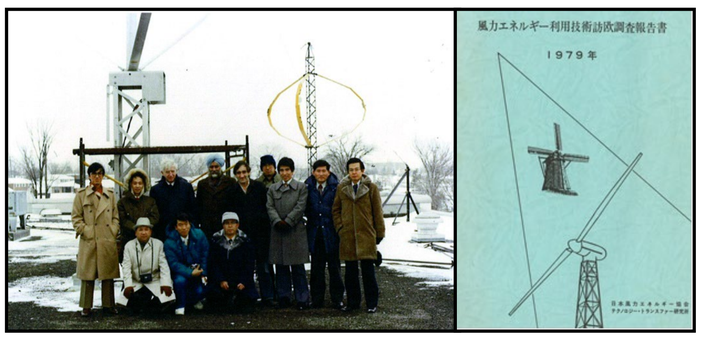
日本風力エネルギー学会の歩み（2024年）

一般社団法人
日本風力エネルギー学会
Japan Wind Energy Association

1977年（設立）

- 日本風力エネルギー協会（JWEA）は1977年に発足。牛山泉（足利工業大学）を中心に有志が集まり12月1日に設立を宣言。
- 事務局は足利工業大学機械工学科牛山研究室に置かれ、会員数は約60名。
- 1977年12月末：協会誌「風力エネルギー」通巻1号を創刊。
- 1978年4月23日：上智大学上智会館で設立総会を開催。全国から約80名が参加し、初代会長に日本大学理工学部教授佐貫亦男が就任。個人会員は大学や高専の研究者、アマチュア研究者などを中心に500名を超え、企業など団体会員は16団体を数えた。
- 1978年2月5日-18日：JWEA主催、テクノロジー・トランスファー研究所の協力でアメリカとカナダへ技術調査団を派遣。
- 1979年9月：第1回風力エネルギー利用シンポジウムを開催。
- 1979年9月-10月：EWEC（欧州風力エネルギー会議）参加を兼ねて、ヨーロッパに風力発電の技術調査団を派遣。

JWEA草創期の役員（左から高月、牛山、大森、吉田、佐貫、奥谷の各氏）



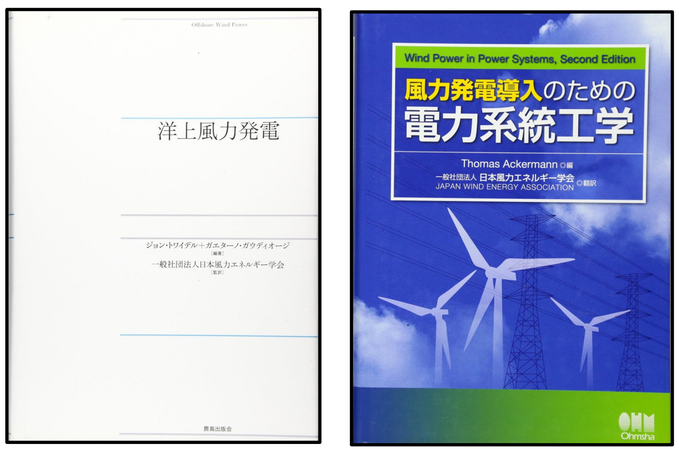
アメリカとカナダへ技術調査団派遣（1979年）

1980年代

- 1981年：活動の活発化に伴い千代田区北の丸公園内科学技術振興財団内に事務局業務を移管。
- 1985年：JWEA主催のNEDO/東京電力の三宅島風力発電施設の見学会を開催。その後毎年見学会を実施。

1990年代

- 1992年：EWEA（欧州風力エネルギー協会）に加盟し国際的な活動を開始。
- 1994年：第1回風サミットが開催され協力。



本会が翻訳した本 (左) 洋上風力発電 (2011年)
(右) 風力発電導入のための電力系統工学 (2013年)

2000年代

- 2005年：GWEC(世界風力会議)の設立に際してJWEAは理事として参画。
- 2007年：設立30周年を迎え11月に「風力エネルギー」誌通巻83号で「JWEA30周年記念特別号」を発刊。

2010年代

- 2011年：任意団体の日本風力エネルギー協会を一般社団法人日本風力エネルギー学会に変更。略称JWEAはそのまま継続して使用。
- 2011年/2013年：出版事業として「洋上風力発電」(2011年鹿島出版会)「風力発電導入のための電力系統工学」(2013年オーム社)を翻訳し出版。
- 2015年：学会の事務局体制を強化するために、東京神田に事務所を開設。協会時代からの多翼式風車をモチーフとしたシンボルマークに代えて、現代風車をイメージした多色のシンボルマークを制定した。学会の財政基盤を強化するために、特別団体会員制度を新設。
- 2017年：学会設立40周年を迎え、記念行事として11月に「風力エネルギー」40周年記念号（通巻123号）を出版、12月に記念シンポジウムを開催。

秋田県洋上風力発電見学会（2023年11月）

2020年代

- 第42回(2020年）及び第43回(2021年）風力エネルギー利用シンポジウムは、新型コロナ対策のためWebを使用したリモート方式で開催。
- 2020年8月：若手及び女性活躍推進ワーキンググループの発足
- 2021年9月：学会事務所を千代田区外神田に移転。
- 2023年：JWEA初の女性理事2名が誕生。
- 2023年11月30日－12月1に開催された第45回JWEA風力シンポジウムの参加者は、2022年の370名に対して、437名と大幅に増加した。
- 同シンポジウムにおいて、女性・若手メンバーによる初のランチセミナーを開催。

女性・若手メンバーランチセミナー
（2023年12月1日）

● 会員数

- 1980年代から90年代初頭まで200人台で推移。
- 1990年代中頃には300名を上回り90年代後期には400名を超えた。
- 2000年代に入ると500名に達し、2020年508名と横這いが続いた。
- その後会員数は増加をはじめ、2024年1月末時点の会員数は600名となった。
  内訳：団体会員（131）個人会員（387）学生会員（59）その他（23）

JWEAシンポジウムで風車アイスケーキの披露と試食（世界最高峰のパティシエのコンクールで日本チームが風車のスイーツで金賞受賞の紹介）